The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ラオス・ルアンプラバンの歴史的遺産保存地区における伝統的建築形態の保存に関する研究
Author(s)	Sitthivan, Somchith
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/46904
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

氏　　名	Sitthivan Somchith（シッテイワン ソムチット）
博士の専攻分野の名称	博　士（工　学）
学　位　記　番　号	第　２０３７５　号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 工学研究科建築工学専攻
学　位　論　文　名	**ラオス・ルアンプラバンの歴史的遺産保存地区における伝統的建築形態の保存に関する研究**
論　文　審　査　委　員	（主査） 教　授　阿部　浩和 （副査） 教　授　奥　　俊信　　教　授　横田　隆司

論　文　内　容　の　要　旨

本論文は 1995 年にユネスコの世界遺産に登録されたラオス・ルアンプラバンの歴史的遺産保存地区における保存事業の現状を行政の取り組みや建築規制の適用状況、住民意識調査の結果などから分析するとともに、県情報文化局と共同で住民参加型ワークショップを企画することで、伝統的建築形態の保存のための基礎的要件を明らかにすることを目的としており、全６章で構成されている。

第１章は序論で、本研究の目的と背景及び関連する既往の研究についての概要を記述した。

第２章では、ルアンプラバン歴史的遺産保存地区における保存規則 PSMV の現状と問題点を把握するために違反建築の調査、許可申請の分析、違反者へのヒアリングなどを行った結果、違反建物の指摘件数は ZPP-Ua 地区と ZPP-Ub 地区がその大半を占めており、その用途は住宅建築が多いこと、違反内容について新築では屋根の色の違反や全体のボリュームに関する違反の割合が多く、改築では屋根の形態や外壁の材料に関する違反の割合が多いこと、違反建築物における許可申請の状況は全体の 86%が申請を行っておらず、その割合は 2002 年に対して 2003 年でやや増加していること、また許可申請を行っているにもかかわらず違反指摘がある建築物に関しては、許可申請図どおりに工事がされていないケースが多く見られること、ルアンプラバンでは住宅の施工を行うのが建築の専門家ではなく住民自身である場合が多いことなどを明らかにした。

第３章では、保存事業に対する行政の取り組みと住民意識を把握するためルアンプラバン及びヴィエンチャンの行政担当者にヒアリングを行うとともに、住民や学生に対して歴史的遺産保存に関する意識調査を行った結果、行政側は住民が保存事業の目的を理解しておらず、保存活動に積極的でないと認識している一方、住民側はルアンプラバンが世界遺産に登録されたことを知っており、それによって観光客が多くなり、きれいになると考えているが、保存事業によって住民自身の住宅工事が規制されることに対しては問題であると考えていること、住民にとって保存すべき住宅イメージの共有はできているが、「ルアンプラバンらしい住宅」と「住みたい住宅」と「現在住んでいる住宅」は異なっていることなどを明らかにした。

第４章では、歴史的遺産保存地区整備事業の支援のための準備段階として、ラオス人の建築図読図能力及び CG シミュレーション適用性の調査を実施した結果、建築図読図能力は建築学部以外のラオスの大学生が日本の大学生に比べて有意に低いこと、読図能力の高い学生においては外観設問が内観設問に比べて難しい一方、読図能力の低いラオ

スの学生においては内観設問と外観設問の間に差が見られないこと、またCGシミュレーションの適用性に関してはCGが写真に比べて古さを表現するのが難しいこと、保存規則のデザインや将来の景観イメージの説明を行う際はCGの利用が効果的であることなどを明らかにした。

第5章では、ルアンプラバン県文化情報局と共同で住民参加型ワークショップを実施した結果、「村の未来」に対する住民の意見は生活面での利便性や安全性の向上を第一に望む者と、ラオスの伝統文化の保存を第一に望む者とに二分されること、講演や保存規則の説明に対しては約93%が理解できたと回答しており、これまでの一方的な集会形式と異なり住民側と行政側との率直な意見交換ができたことを評価する意見が多く得られたことなどから、今後の保存地区整備事業において行政と住民との協働作業を進めていくための基礎的要件を明らかにした。

第6章では、以上で得られた結果をまとめて示し、本論文の結論とした。

論文審査の結果の要旨

本論文はラオス・ルアンプラバンの歴史的遺産保存地区における保存整備事業の現状を行政の取り組みや建築規制の適用状況、住民意識調査などから分析するとともに、住民側の視点から当該地区における課題と要因を分析し、その成果を保存整備プロジェクトに適用、評価することで、伝統的建築形態の保存のための基礎的要件を明らかにしている。主な成果は次のとおりである。

1) 歴史的遺産保存地区における保存規則PSMVに対する違反建物の指摘件数はZPP-Ua地区とZPP-Ub地区がその大半を占めており、その用途は住宅建築が多いこと、違反内容について新築では屋根の色の違反や全体のボリュームに関する違反の割合が多く、改築では屋根の形態や外壁の材料に関する違反の割合が多いことなどを明らかにしている。
2) 違反建築物における許可申請の状況は全体の86%が申請を行っておらず、その割合は2002年に対して2003年でやや増加していること、また許可申請を行っているにもかかわらず違反指摘がある建築物に関しては、許可申請図どおりに工事がされていないケースが多く見られること、また設計や施工を行うのが建築の専門家ではなく住民自身であるために、政府が策定したPSMVの規則が十分に理解されていない可能性があることなどを明らかにしている。
3) 保存事業に対する住民側の意識はそれによって住民自身の住宅工事が規制されることに対しては問題であると考えていること、住民にとって保存すべき住宅イメージの共有はできているが、「ルアンプラバンらしい住宅」と「住みたい住宅」と「現在住んでいる住宅」は異なっていることなどを明らかにしている。
4) ラオスの大学生の建築図読図能力は日本の大学生に比べて有意に低いことから、ルアンプラバンの住民の読図能力も低いことが示唆される。
5) ラオス人を対象にしたCGシミュレーションの適用性に関して、CGが写真に比べて古さを表現するのが難しいこと、保存規則のデザインや将来の景観イメージの説明を行う際はCGの利用が効果的であることなどを明らかにしている。
6) 住民参加型ワークショップにおいて「村の未来」に対する住民の意見は生活面での利便性や安全性の向上を第一に望む者とラオスの伝統文化の保存を第一に望む者とに二分される結果を得ている。

以上本論文は、ラオス・ルアンプラバンの歴史的遺産保存地区において、保存規則の運用に関する課題が指摘される中で、当該規則に対する違反建築の実態を明らかにし、住民側、行政側の意識を把握するとともに、現地において住民参加型ワークショップを実施、検証することで、伝統的建築物保存のための有益な要件を明らかにしており、建築計画、都市計画及び建築形態工学の研究の発展に貢献するところ大である。よって本論文は博士論文として価値があると認める。